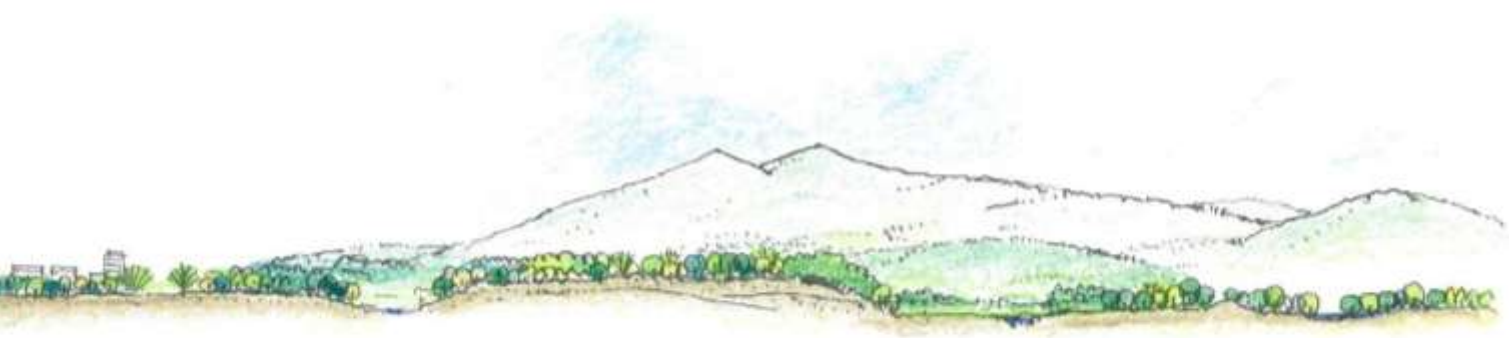


ガーデンシティ  
人と緑が共生する田園都市・つくば



# つくば市緑の基本計画

改訂版



## はじめに



つくば市は、南北 30km、東西 15km の広大な市域の中に、北に日本百名山の一つに数えられている名峰筑波山をはじめとして、里山や農地、小貝川や桜川などの河川、社寺などの緑が織りなすように展開しています。また、研究学園地区を中心に、数多くの公園、街路樹、住宅地や研究施設の緑など、多様な緑が見られます。

このほど実施しました市民アンケートでも、つくばのこのような緑の豊かさが大きく評価され、住みやすいと感じている市民の方が多いことが伺われます。

「つくば市緑の基本計画」は、本市の恵まれたこれらの特性や資産を活かしながら、真に豊かなつくばを創造し、次世代を担う子どもたちに豊かな自然環境を継承していくために、平成17年に策定しました。策定から 10 年が経過しましたが、この間、つくばエクスプレスの開通とともに、沿線地区の整備が急速に進んでいます。一方で、研究学園地区の公務員宿舍の廃止処分が進むなど、つくば市を取り巻く緑を含めた環境は大きく変化しています。また、「環境モデル都市」として温室効果ガスの削減に向けた取り組み、災害の抑止・防止、生き物の生息地、スポーツやレクリエーションの場など、緑に期待される役割はますます重要となっています。

このような昨今の状況の変化を踏まえ、より一層緑豊かなまちづくりを進めていくために、このたび計画の一部見直しを行いました。

緑の将来像である「人と緑が共生する田園都市(ガーデンシティ)」は、住み続けたいまちつくばの緑の側面からの姿といえます。その実現に向けて、市のみでできることは限られています。市民の皆様をはじめ、団体や事業者、研究機関、あるいは地権者の皆様とともに、これまで以上に連携や協働を図り、その実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

最後に、計画の改訂に当たり貴重なご意見をくださいました「つくば市緑の基本計画策定委員会」の委員のみなさまをはじめ、アンケートにご協力いただき貴重なご意見をいただいた市民の皆様から感謝申し上げます。

平成28年3月

つくば市長

市原 健一

## 目 次

<b>第1章 緑の基本計画の目指す方向</b> .....	<b>1</b>
1. 緑の基本計画とは .....	2
2. 計画で対象とする緑 .....	4
3. 緑の将来像—つくば市の緑の将来の姿 .....	6
4. 計画の目標 .....	10
<b>第2章 つくば市の緑の現況と課題</b> .....	<b>11</b>
1. つくば市の概況 .....	12
2. つくば市の緑の現況と特性 .....	16
3. 計画の進捗状況 .....	27
4. 緑に関する市民アンケート調査の結果 .....	31
5. 計画課題の設定 .....	36
<b>第3章 緑の推進施策の方針</b> .....	<b>41</b>
1. 緑を守り育てる意識づくり .....	46
2. 市民などの参加・参画を支える仕組みづくり .....	48
3. 緑の維持管理の充実と循環の仕組みづくり .....	51
4. つくばらしい田園の緑の保全と育成 .....	54
5. 田園と都市を結ぶ市民の里づくり .....	58
6. 筑波山・牛久沼の緑の保全と活用 .....	60
7. 水と緑の回廊づくり .....	62
8. つくばライフを楽しむ緑の拠点づくり .....	67
9. 地域と一体となった緑の学校づくり .....	70
10. 緑の遊歩道のネットワークづくり .....	71
11. 研究所・大学などの緑の保全と活用 .....	72
12. 地域の環境と調和する緑のまちなみづくり .....	73

**第4章 推進のための取り組み**……………81

- 1. 緑のまちづくりを支える各主体の役割…………… 82
- 2. 計画の推進を支える取り組み…………… 85

**参考資料**……………87

- 1. 市民アンケート 自由回答のまとめ…………… 88
- 2. 計画策定の経緯と策定体制…………… 93

# 第1章

## 緑の基本計画の目指す方向

# 1. 緑の基本計画とは

緑の基本計画は、都市緑地法に基づき策定する「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」であり、つくば市が長期的な視点から定める緑とオープンスペースに関する総合的な計画です。

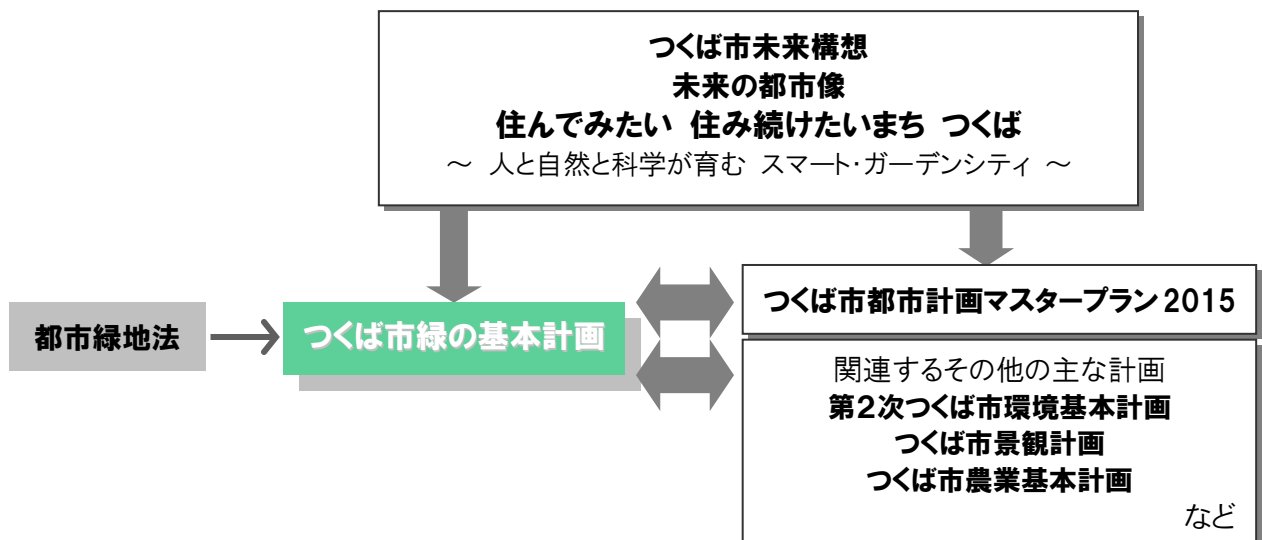
本計画は、本市の緑をとりまく状況を勘案しながら、目標や基本方針などを明らかにし、それを実現するための具体的な取り組み(施策)を定めます。

多様な緑を保全し、創出していくためには、多くの主体が連携・協働し取り組みを進める必要があることから、本計画は、このような主体の取り組みの方向性を明確にししながら、緑の保全、緑化の推進を図るための指針となります。

## (1) 計画の位置づけ

本計画は、「つくば市未来構想」を上位計画として、「つくば市都市計画マスタープラン」「第2次つくば市環境基本計画」などの各分野の計画と整合を図りながら策定する緑に関する分野別計画となります。

### ■ 計画の位置づけ



## (2) 計画見直しの趣旨

### ①背景

つくば市では、平成 17 年 3 月に、概ね 20 年を目標年次とした「つくば市緑の基本計画」を策定し、緑のまちづくりを推進してきました。策定から 10 年が経過し、「つくば市未来構想」をはじめとする上位・関連計画が策定・改訂され、つくばエクスプレスの開業やその沿線開発地区における市街地整備の進展など、つくば市の状況も大きく変化しています。さらに、人口減少社会への移行や少子高齢化の進行、環境・エネルギー問題の深刻化、東日本大震災を契機とした安全・安心に対するニーズの高まりなどの社会情勢の変化に的確に対応することが必要となっています。

このような状況を踏まえ、より一層緑のまちづくりを推進していくために、今回本市における緑の現況を改めて確認するとともに、上位・関連計画との整合を図りながら、中間年次として一部見直しを行いました。

### ②見直しの考え方

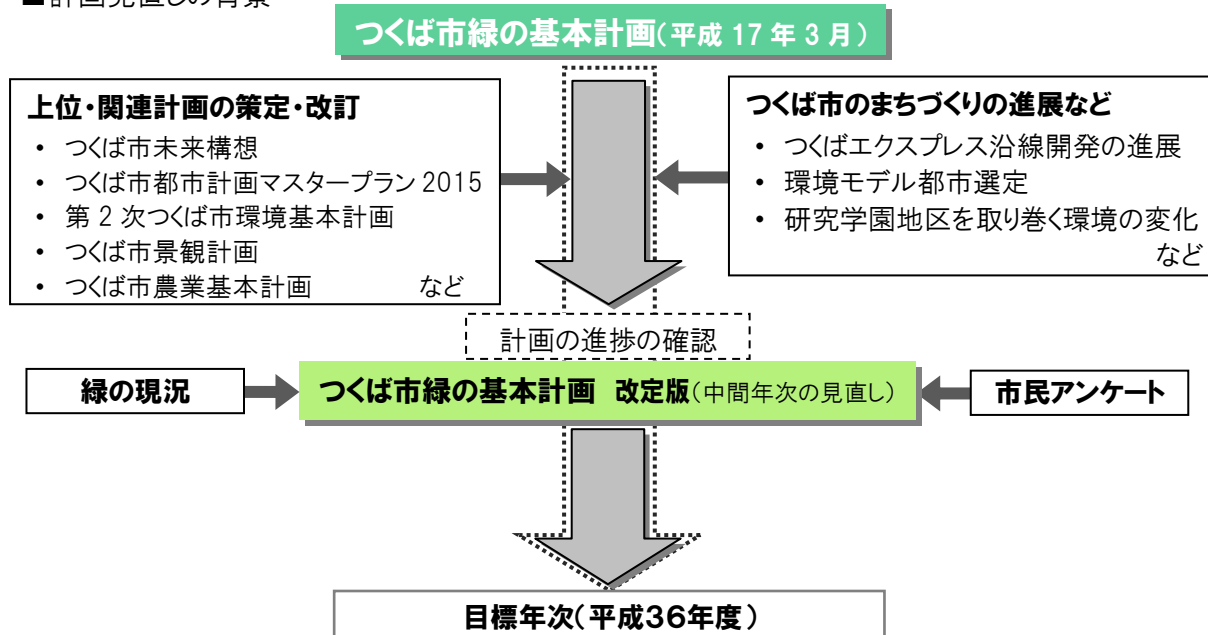
計画の見直しに当たっては、緑の将来像や目標については基本的に継承しつつ、上位・関連計画の内容を踏まえ、つくば市におけるまちづくりの進展などを中心とした状況や、緑の現況を把握し整理するとともに、これまでの計画の推進状況や市民アンケート調査の結果を踏まえ、計画課題を再整理しました。

計画課題に基づき、緑の将来像を実現していくための緑の推進施策の方針について、見直しや拡充を行いました。

## (3) 計画の期間

計画の目標年次は、「つくば市未来構想」や「つくば市戦略プラン」との整合を図り、平成 36 年度とします。

### ■ 計画見直しの背景





## 2. 計画で対象とする緑

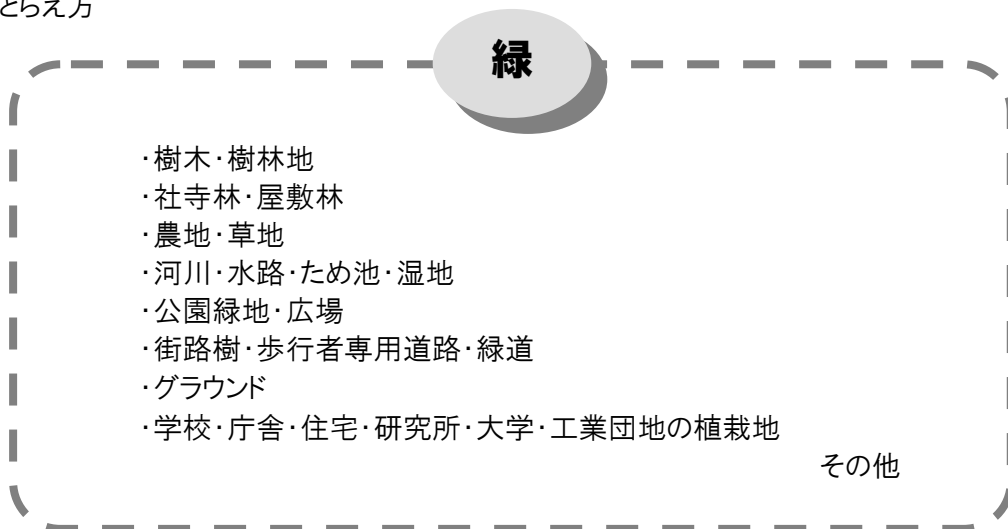
本計画で対象とする緑は、樹木や草などの植物によって覆われている土地及びこれらと一体となった水面やオープンスペースなどを指します。

### (1) 緑のとらえ方

緑の具体的なものとしては、樹木、樹林地、屋敷林、社寺林、水田や畑などの農地、草地、河川やため池などの水面や水辺、公園緑地や広場、街路樹、緑道、グラウンド、住宅などの施設の植栽地などがあります。

特に本市では、平地林や斜面林などを含む里山と呼ばれる二次的な自然環境や筑波山の森林、公園緑地、街路樹、ペDESTリアンデッキ(歩行者専用道路)の緑、研究所・大学・工業団地の植栽地などが主要な緑としてとらえられます。

#### ■ 緑のとらえ方



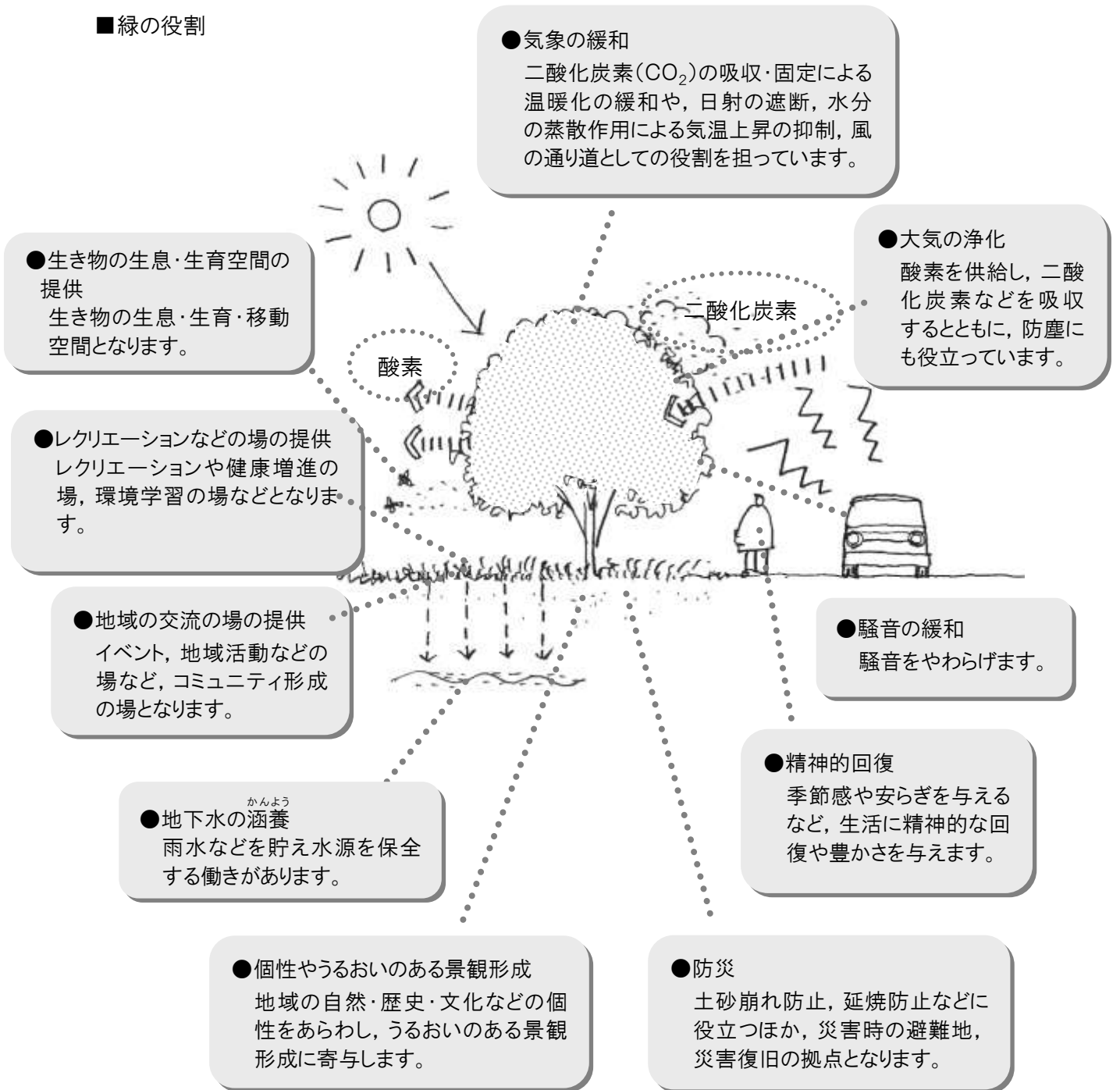
### (2) 緑の役割

私たち人間は、自然とかかわりあいながら生きています。緑は、身近な自然の基盤として、直接的・間接的に多くの働きをもって、私たち人間の生活だけでなく、存在自体を支えています。

具体的に、緑は気象の緩和、大気の浄化、騒音の緩和、精神的回復、生き物の生息・生育空間の提供、レクリエーションなどの場の提供、地域の交流の場の提供、地下水の涵養、防災、個性やうるおいのある景観形成などの役割を担っています。

【地下水の涵養】… 降雨などの地表水を地中にしみ込ませ、一時的に貯えて調節し、水資源などを保全する働きをいう。

## ■ 緑の役割

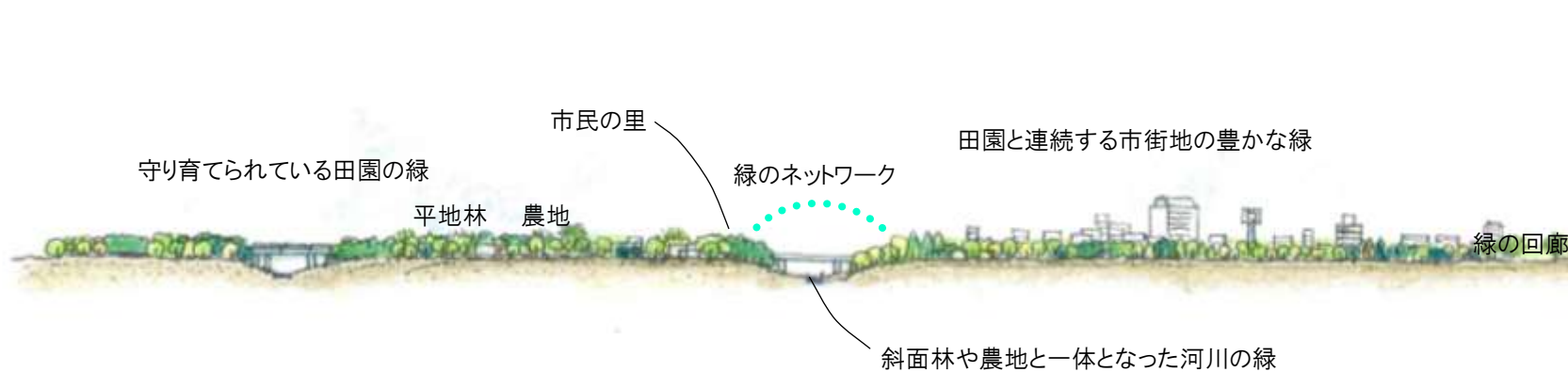


### 3. 緑の将来像—つくば市の緑の将来の姿

つくば市の恵まれた緑の環境としての資源と、田園と都市が混在した特徴を活かすとともに、緑を有機的につないでいくことにより、田園と都市が共生した環境づくりを、人々が連携・協働しながら支えていくことを基本的な考え方とし、つくば市が目指す緑の将来像を次のように掲げます。



#### ■ 将来のつくば市のイメージ



#### ■ 「人と緑が共生する田園都市・つくば」のイメージ

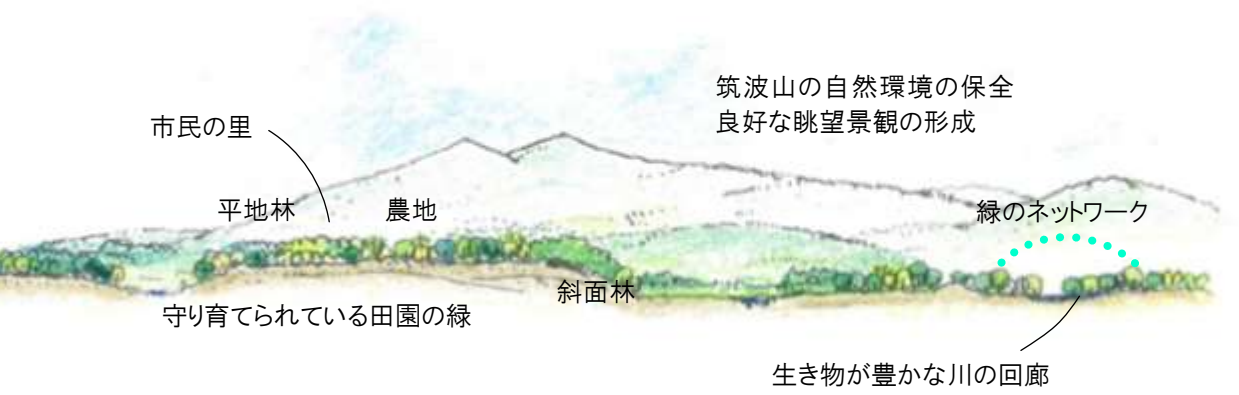
つくば市の緑には、多種多様なものがありますが、将来では、これらの緑がより質的に豊かになって有機的につながり、人々がかかわって評価され、守り育てられています。

北には関東の名峰であり、優れた自然環境を持つ筑波山を擁し、南は広がりのある水辺と緑を誇る牛久沼に臨んでいます。ここでは、自然環境が大切に守られ、同時に、レクリエーションゾーンとして活用されています。また、筑波山への眺望にも配慮された景観も形成されています。

小貝川や桜川などの河川は、緑を伴ってゆったりと流れ、生き物の生息地や移動の回廊となっています。また、つくばの緑を支えてきた水田や畑、果樹園なども広がり、農業と密接にかかわってきた平地林や屋敷林が点在しています。これらの田園の緑は、市民やボランティア・NPO 法人といった緑を大切にしたいという人々や研究機関の力を借りながら、適切に管理されています。そのように手に入った緑には、多様な生き物が生息しています。特に、周辺の農村と都市部を結ぶように、里山づくりの場となっている市民の里が確保されており、そこでは、さまざまな取り組みの拠点となっており、子どもからお年寄りまで、緑を介した人々の交流が育まれています。

筑波研究学園都市の建設やつくばエクスプレス沿線開発などによって整備されてきた公園、街路樹、研究所などの緑も、田園の緑と調和を保ちながら連続しています。これらの緑についても所有者とともに、市民や団体、事業者などの協力によって、維持管理が積極的に展開されており、地域の緑として愛されています。

このように、将来のつくば市では、かつてそうであったように、地域における緑を大切にしまちづくりや資源の循環のためのルール・仕組みが市民と市の協働によって維持され、人と緑が豊かに共生し、住んでみたい、住み続けたいと感じる田園都市(ガーデンシティ)が実現しています。



## ■緑の将来像図



## 凡例

	<b>筑波山の緑の保全と活用</b> 自然環境の核であり、広域的な拠点となる筑波山と周辺の緑の保全・活用	P. 60 参照
	<b>川の回廊づくり</b> 牛久沼や小貝川・桜川一帯の緑の保全による骨格軸の形成	P. 61・62 参照
	<b>身近な川の回廊づくり</b> 谷田川などの河川の緑の保全とネットワーク軸の形成	P. 63 参照
	<b>緑の回廊づくり</b> 幹線道路の緑と沿道の緑が一体となった骨格軸の形成	P. 64・65 参照
	<b>緑の拠点づくり</b> つくば市にふさわしい水辺や緑に親しめ、多様な利用が期待される公園や緑地の整備と施設の充実などによる積極的な活用	P. 67～69 参照
	<b>市民の里づくり</b> 市民・団体と土地所有者などと市の協働による、平地林などの田園の緑を活用した里山づくり (土地所有者等の協力によるものであるため、位置は任意です。)	P. 58・59 参照
	<b>遊歩道ネットワーク軸</b> 歩行者・自転車道のネットワークの軸となる緑の道の維持・整備	P. 71 参照
	<b>シンボリックな緑の表情づくり</b> まちの中心部や駅周辺における緑を活かしたシンボルとなる顔づくり	P. 73 参照
	<b>田園の緑の保全と育成</b> 平地林・斜面林・屋敷林・農地などの緑の保全・育成	P. 54～57 参照
	<b>計画的市街地などの緑の保全と活用</b> 計画的市街地や研究所などの緑の保全・活用と緑豊かなまちなみづくり	P. 72～75, 77・78 参照
	<b>地域の中心における緑の保全と育成</b> 旧市街地における集落の緑を活かしたまちなみづくり	P. 74 参照

## 4. 計画の目標

緑の将来像である「人と緑が共生する<sup>ガーデンシティ</sup>田園都市・つくば」を実現していくために、多様で質の高い緑のネットワークを、多様な主体のネットワークが支えていくことを目標とするまちの姿とします。

### ガーデンシティ 人と緑が共生する田園都市・つくば

#### 緑のエコロジカルネットワークと緑を楽しむ暮らしが息づいたまち

北に位置する筑波山と周辺の緑、南に位置する牛久沼周辺の緑をはじめとして、平地林・斜面林・屋敷林・社寺林・農地などの多様な緑や、小貝川・桜川などの水辺を、本市固有の財産としてとらえるとともに、生き物の生息に配慮した環境とするなど、その質の向上に努めます。また、緑の機能を効果的に発揮させていくためには、連続性をつくり出すことが重要であることから、良好な緑のネットワークの形成を図ります。同時に、これらの緑が私たちの暮らしと無関係にあるのではなく、暮らしを豊かにするものとして位置づけ、緑と暮らしの良好な関係が息づいている地域づくり・環境づくりを目指します。

#### 緑の連携・協働のネットワークが支えているまち

緑は人と密接にかかわりあいながら存在しています。特に、本市にある緑の多くは、人によって育まれてきた緑であり、今後も人がかかわっていくべきものとしてとらえる必要があります。

本市には、この緑を支える人として、市民、土地所有者、市民ボランティアやNPO 法人などの団体、民間事業者、国等の研究機関、大学、国・県・市などが考えられ、極めてバラエティに富んでいます。これらは、いわば緑のまちづくり物語の登場人物であり、本計画はそのシナリオであるといえるでしょう。登場人物達はその役割を果たし、また役同志が息のあった関係をつくることによって、ひとつの物語はさらに大きく広がります。

このように、市内にある取り組み・活動の集積を有効に活用するとともに、それぞれが持つ役割を分散させることなく、その関係を整えることによって、各主体の協働・連携のネットワークの形成を図り、緑のつくばを支えていくことを目指します。